

わしたしまの情熱キーパーソン



行政の人たちと地域みんなが一緒になって動けば、地域はより快適に、もっとハッピーに。このコーナーでは、そんな地域づくりに取り組む地域住民と行政担当者の「協働」について紹介していきます。

南風原町 家庭の生ごみを堆肥や飼料に再生。食の循環システムの構築を目指す

南風原町はごみの減量化、資源化を促進しようと、平成二十年六月から「生ごみ分別収集飼料堆肥化モデル事業」をスタートしました。住民環境課の知念功さんは「家庭から出る生ごみを堆肥化するだけでなく、豚の飼料に再生することで、食の循環を目に見えるようなかたちにする」と目指しています。初年度は百世帯を目標とし、集合住



団地モデル世帯の皆さん。手にしているのは専用生ごみ収集袋などを利用した手作りマイバッグです。前列右から二人目が阿波根紀子さん



生ごみ飼料化作業風景。生ごみの中に異物がないか確認後、細かくカットしています

宅を対象にモデル世帯を募集しました。事業の趣旨に賛同し、まとも役を買って出たのが、南風原第二団地自治会長阿波根紀子さんです。「団地の仲間を声をかけたところ、二十人ほどが応えてくれましたので、私の方でまとめて申し込みました。月曜から土曜まで、いつでも生ごみが出せるので助かっています」と阿波根さん。活動は口コミで広がり、わずか一月ほどで、同団地のモデル世帯の数は五十を超え勢いを見せています。生ごみの排出から収集運搬の流れは、行政、地域住民、NPO法人による協働が進められています。モデル世帯は、生ごみを町から配付される専用の収集袋に入れ、各棟指定の回収専用容器



住民環境課の知念功さん(右端)とのもぞみの里作業所の皆さん(右から3人目が永坂生子さん)

南風原町役場 総務部 住民環境課 生活環境班
TEL:098-889-1797

に入れます。NPO法人「もぞみの里作業所」が、その容器を収集し、生ごみを堆肥や飼料にする作業を行います。そのもぞみの里作業所は、脳卒中で後遺症のある患者の生きがいと健康増進を図ることを目的に設立され、生ごみを堆肥化する事業には実績がありました。「社会を変えるのは台所から。生ごみを再生した飼料は、安全性も高いと思います」と同作業所施設長の永坂生子さん。一般家庭から出る生ごみの飼料化は、まだ試験的段階ですが、「成功すれば、その飼料で育てた豚のお肉を、モデル世帯へ差し上げたいと思っています」と語る知念さんの夢は広がります。

読谷村

公民館を拠点とした、地域のボランティアによるミニサービス

読谷村の「ゆいまーる共生事業は、老人クラブに参加できない高齢者や心身障がい者などを対象としたミニサービスで、その活動は地域のボランティアに支えられています。

「各公民館を拠点に地域の対象者が集まって、健康体操をしたり、歌や踊り、ゲームを楽しんだり、ちょっとしたおやつなどもボランティアの方々が調理して出しています。平成元年、村社会



チームワーク抜群の老人福祉係の皆さん(前列右端が伊狩めぐみさん)



対象者が楽しみにしている保育園児たちとの交流会

福祉協議会の呼びかけで、高齢者などの引きこもりを防止しようと、喜名地域をモデルケースとした取り組みが始まりました。現在では、村の二十三地域のうち、二十二カ所で展開されています」と老人福祉係の伊狩めぐみさん。サービス運営はボランティアが行っていますが、ボランティアを対象とした講座や研修会を開くなど、行政側がその活動を常にサポートしています。喜名地区のミニサービス「福寿会」の宇根清子会長は「最初の集まりで、引きこもりがちだった対象者同士が再会を喜んで、涙を流したという話をボランティアの先輩から聞いています。



喜名福寿会ボランティア
宇根良雄区長 比嘉満子さん 宇根清子会長 岸本幸子さん

読谷村役場 生活福祉部 福祉課 老人福祉係
TEL:098-982-9209

対象者だけでなく、ボランティアも楽しみながら積極的に参加しています。これが福寿会の強みです」と誇らしげに話します。現在、福寿会のボランティアは三十人、対象者は五十人。基本的に対象者は八十歳以上ですが、なかには八十代でボランティアを務める方もいれば、かつてのボランティアが九十歳を超えて引退し、対象者となったケースもあるそうです。対象者に一番人気なのが、地域の小学校や保育園などの子どもたちとの交流会。その他、地域の婦人会や老人クラブなど、各種団体との交流も盛んで、まさにゆいまーる(相互扶助)の名にふさわしい事業内容となっています。

編集後記

九月に入りましたが、まだまだ暑い日が続いています。今年の高校野球は浦商が四強入り、たくさんの元気がもたらしました！必死に白球を追いかける姿は感動です。野球って素晴らしいですね！よし、これから毎日素振りします！(ノア)

八並びの八月八日午後八時八分(中国時間) 壮大な開会式とともに北京オリンピックが始まりました。四年に一度行われる一大スポーツイベントは毎回楽しみにしており、これまでも開会式のテレビ放映だけは欠かさず見てきた私。この日は仕事で離島へ出張中でしたが、開会式の時間までには沖縄本島に戻れるということで安心していたところ、まさかの飛行機トラブルで開会式のテレビ放映時間に間に合うことができません。人生ってホント何が起るかわかりませんね、トホホ！(tak)

沖縄県広報誌 平成20年9月1日発行第32巻9号通巻396号

美ら島沖縄

企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課
〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2
TEL.098-866-2020

■表紙 写真・文：今泉 真也
9月、夜がやや涼しくなってくるころ、茂みを我が物顔に飛びまわっていた蚊(がじゃん)たちも、おとなしくなってくる。いっぱい遊んだ子どもたちも、また学校に戻る季節。

■P12-P13 季節情報提供
(財)沖縄観光コンベンションビューロー